



## なりたい自分を見つめて ～心の中の鬼たいじ～

今年も「節分」がやってきます。「節分」といえば苦い思い出があります。小学校の教師になってまだ間がない頃、節分の給食に「豆」が出たときのことで。一粒を「鬼は外」用に、もう一粒を「福は内」用に残しておき、ごちそうさまの後、



クラスのみんなで豆まきをしました。鬼を追い出すために窓を開け、外に向かって

思い切り「鬼は～外！」と叫んだその時でした。「こっらあー！5年3組、今すぐここへ降りて来なさい！」という怒鳴り声が…。見ると、学校で一番怖い生徒指導の先生が、上を向いてにらんでいるではありませんか。全員、大あわてで下に降り、「給食の豆は、食べるもの、まくものではありません！」と、厳しく指導を受けました。節分が来るたびに、子どもたちと一緒に並んで叱られた三十年近く前の出来事を思い出します。

ところで「節分」の豆まきにはルールがあることをご存じでしょうか。まず、自分の中から追い出したい鬼（弱い心）をしっかり考え、次に、招き入れたい福（なりたい自分の姿）を思い浮かべます。自分一人で考えるより、夕食時などに家族で話し合ってみるといいですね。お父さんは「のみすぎ鬼」、お母さん



は「うっかりさん鬼」…などと、子どもたちはよく大人の姿を見ています。鬼と福が決まれば、いよいよ豆まきです。寒いからといって、窓や扉を閉め切ったままでは鬼は出て行きません。また、順番を間違うと大変です。先に鬼を追い出してから、その後、福に入ってもらおうようにしましょう。さてさて、皆様のご家では、どんな鬼を追い出して、どんな福を招き入れることができるでしょう。「宿題しない鬼」「夜ふかし鬼」「ゲームやめられない鬼」「妹泣かし鬼」などなど、鬼をいっぱい追い出せるといいですね。



一年で一番寒い季節に入ってきました。カラーロードの紫花菜たちが、じっと北風に耐えています。見かけは毎日全く変わりませんが、土の中では根っこを広げながら、春に花を咲かせる準備を静かに進めています。この季節、学校ではいつも子どもたちが飛び跳ねています。「寒い寒い！」と言いながら、体育の授業に出て行

った子どもたちが、ピンク色のほっぺをして笑顔で教室に戻って行きます。いつものあたりまえの光景ですが、立花北小学校のほほえましい冬の風物詩です。